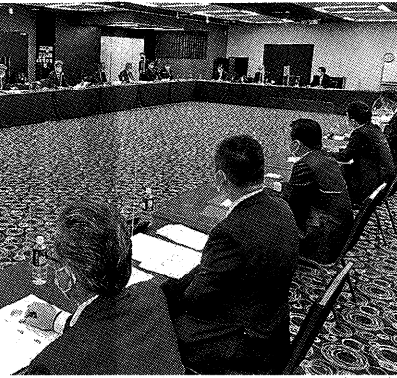


労務改革 更なる改善を確認

日建連九州支部と整備局が意見交換

遠隔臨場 実施拡大へ情報交換

(一社)日本建設業連合会九州支部は9日、九州地方整備局と令和4年度の意見交換会＝写真＝を開催した。会議では、令和6年4月からの時間外労働の上限規制適用を見据え、発注者による諸施策や、それに伴う受注者側の労働環境の変化等について情報を交換し、働き方の改革は着実に進んでいる、との認識で一致するとともに、規制開始に向けて、さらなる改善の必要性を確認した。



また、業務の効率化に係るテーマでは、さらなる拡大が想定される「遠隔臨場」について、日建連がこれまでの導入結果を踏まえて、問題となった事案に対する改善を要望。九州地整は「具体的な問題点を把握し、関係団体と情報を共有しながら改善を図っていきたい」等とし、日建連側は「情報提供を要請するとともに、遠隔臨場の積極

的な活用も呼び掛けた。福岡市内のサットンホテル博多シティで開かれた今年度の意見交換会には、日建連九州支部から西河誠支部長や副支部長など、九州地整からは森下博之企画部長のほか、局内各部の幹部職員らが出席した。

開会に当たり西河支部長と、森下企画部長があいさつ。引き続き今年度の会議のテーマである▽入札契約手続▽生産性向上▽労働環境▽業務の効率化▽建設キャリアアップシステムの取り組み状況▽等について意見を交わした。

このうち「入札契約」では、日建連からの「書類の簡素化等」に関する要望に対し、九州地整は「引き続き取り組んでいく」等と回答。新たな提案事項となる「開示資料」に係る内容では、日建連が設計業務成果品の現状の開示内容に係るアンケートで、6割近い会員が「秘密性の

ない箇所は黒塗りをしないでほしい」との回答があったことなどを説明。九州地整は、秘密性のない箇所の開示等は、行政文書の透明性や国民に対する説明責任の観点から重要であるとの認識を示し、「今後、局内で検討

福岡市は、今年度第2四半期の工事成績評定結果(財政局検査課検査分)をまとめた。7～9月に検査した全183件のうち、優良とされる80点以上を取ったのは15件。最高点は、松鶴建設が施工した比恵1号幹線(4)築造」の86点だった。

第2四半期に検査した183件の内訳は、土木104件、建築25件、電気25件、機械29件。このうち80点以上を取得したのは、土木10件、建築3件、電気1件、機械1件の計15件となった。今年度第1四半期に80点以上を取ったのは、土木8件、建築3件、電気1件だった。80点以上を取った第2四半期検査工事は次の通り。

竹田阿蘇道路

着工式で無事完成祈願

交流促進や地域活性化期待

【大分】九州横断道路の一部を構成する竹田阿蘇道路(延長22・5km)の着工式＝写真＝が

11日、竹田市会々の竹田小学校で催された。国土交通省や大分県、熊本県など沿線自治体関係者ら約200人が出席。中九

式典では、九州地方整備局の藤巻浩之局長が「九州横断道路は、これまで約3割が開通している。この道路をつないで

熊本の田嶋徹副知事は「九州横断道路沿線の病弱町にTSMCの工場建設が進んでいる。こ

れを契機とした半導体関連企業の集積が期待され、両県の結び付きを強めてシリコンアイランド九州の復活につなげた

小学校で催された。国土交通省や大分県、熊本県など沿線自治体関係者ら約200人が出席。中九

重要性を強く感じている。ネットワーキングを整備する

この後、藤巻局長や広瀬

の無事を祈願した。

竹田阿蘇道路は、竹田市竹田IC(阿蘇市の(仮称)波野IC間の約22・5km。うち橋梁が20橋、トンネル1カ所を予定しており、概算事業費は約688億円を見込んでいる。

中九州横断道路は、大分市と熊本市を結ぶ約120kmの地域高規格道路。大分県と熊本県の交流を促進し、産業発展や地域活性化、さらには災害時における国道57号の代替